

令和3年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	中学 2	学校名	県立太田第一高等学校附属中学校						課程	—		学校長名	鈴木 清隆			
教頭名	[全日制] 西野 守郎 ・ 塚田 歩 [定時制] 小出 岳夫 [附属中] 岡部 英昭						事務室長名	佐藤 総英								
教職員数	教諭	12	養護教諭	1 (兼務)	常勤講師	0	非常勤講師	1 (兼務)	実習教諭, 実習講師, 実習助手	0	事務職員	5 (兼務)	技術職員 ALT等	8 (兼務)	計	33
生徒数	小学科	1年次		2年次		3年次		4年次		合計		生徒数	合計	合計クラス数		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	合計				
	普通科	20	20	20	16	—	—	—	—	40	36	76	2			

2 目指す学校像

グローバルな課題の解決に挑み、持続可能な社会づくりに貢献する起業家となる基礎を育む学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	・学習進度に差がみられ、習熟度や少人数など実態に合った支援・指導が必要である。	・少人数指導・習熟度別指導を導入するにあたり、実態に即して柔軟に対応するとともに、適切な個別指導体制を構築すること。
進路指導	・将来の夢や希望をもっている生徒が多いが、具体的な職業感についての認識は十分とは言えない。	・キャリア教育の指導計画の改善・充実を図るとともに実践的・体験的な活動の充実を図ること。
生徒指導	・基本的な生活習慣が定着している生徒が多い。 ・スマートフォンのマナー違反や過度の使用、歩きスマホについて指導が必要である。	・問題行動の未然防止及び早期発見・対応に努めること。 ・特別な支援を要する生徒への理解と指導体制の充実を図ること。
特別活動	・全員部活動加入を推奨しており、部活動に対する関心・意欲が高い生徒が多い。	・高校と連携した部活動の充実と学習との両立を図ること。 ・キャリアパスポートを活用し、生徒が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題について考えることができるように自主的・自発的な活動を進めること。
働き方改革への取組	・4月の時点では、月45時間以上の超過勤務者が出る状況にはない。	・組織を有効に機能させた業務を推進し、業務の効率化を図り、超過勤務を削減できる体制を構築すること。

4 中期的目標

- (1) 併設型中高一貫教育校として、新しい教育課程に基づく深い学びの実現に努める。
- (2) 豊かな人間性と自主性・自立性・自発性の育成に努める。
- (3) 探究を軸とした学びのスタイルの確立に努める。
- (4) ICTを効果的に活用することで、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を推進する。
- (5) グローバル社会で活躍するための資質・能力を育成する。
- (6) 業務の効率化を進め、生徒一人一人に寄り添う指導の実現に努める。

5 本年度の重点目標

	重点項目	重点目標
(1)	学習習慣・基礎基本の定着の割合	・小テスト等を活用した学習理解度の把握ときめ細かな指導を実践する。
	学習理解に対応した習熟度別授業の割合	・国語・数学・英語・理科・社会において少人数指導を実践する。 ・数学・英語において習熟度別授業を実践する。
(2)	体験的な学習を取り入れている割合	・「探究プロジェクト」を活用し、自分たちで企画・立案し、他校の生徒たちとの協働による課題解決を体験する。
	自分の考えを伝えることができる生徒の割合	・授業や様々な活動において、生徒同士で話す・伝える場を設定し、自分の考えを伝えることができる生徒の割合80%を目指す。
(3)	探究的な学びを取り入れている割合	・全ての授業で年間を通して探究的な視点を取り入れた授業を実践する。
	他の教員の授業から気づき・学びを得た教員のべ人数	・各教員が毎月1回は他の教員の授業から気づき・学びを得ることを目指す。
	生徒の授業満足度（アンケート）	・各教科における生徒の授業満足度90%を目指す。
(4)	授業における教員のICT活用割合	・各教員がそれぞれの授業において、ICTを効果的に活用することにより、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を推進する。
(5)	実践的な英語力を身に付けている生徒の割合	・中学3年において、英検準2級相当の生徒の割合50%を目指す。
	授業や体験活動等の中で、国際教育を取り入れた割合	・イングリッシュ・スタディやブリティッシュ・ヒルズ、オーストラリア体験留学に向けた取組と実際の活動を通して、コミュニケーション能力を育成し、異文化理解を深める。
(6)	平均超過勤務時間数	・各分掌、学年で業務の効率化を推進するための具体的な工夫を行う。